



ペロズステーション

PERO'S STATION

第85期 決算のご報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

東映アニメーション株式会社



ナイト・オブ・ザ・ソディアック

聖闘士星矢 The Beginning

株主の皆さまへ

市場規模約30兆円と言われる グローバルアニメ市場への チャレンジ



株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素は格別のご支援を賜り心より御礼申し上げます。

劇場3作品の大ヒットにより、 売上高・各利益とも過去最高を大幅更新

第85期は、「ドラゴンボール」、「ワンピース」、そして「スラムダンク」と、劇場大型3作品がいずれも大ヒットを記録する素晴らしい年となりました。中でも「ONE PIECE FILM RED」は、日本での興行収入197億円と、当社として過去最高、邦画興行収入ランキングでは歴代第8位(アニメでは第6位)となったほか、映画「THE FIRST SLAM DUNK」は「第46回日本アカデミー賞 最優秀アニメーション作品賞」に輝くなど、記録づくめの1年となりました。

当社の事業環境認識について

当社を取り巻く外部環境は、足元ではコロナ禍の収束による物販やイベント関連事業の回復に加え、海外市場拡大の追い風を受け、極めて良好です。広義の日本アニメ市場は約2.7兆円と、直近5年間では年平均6.4%の高成長を遂げました。一方、グローバルのアニメ市場に目を転じると、同市場規模は約30.7兆円にも達し、当社にとり、大いに成長余地が残されていると認識しています。こうした中、これまでも当社では、国内のみならず、成長著しい海外市場の開拓に

も積極的に取り組み、独自の強みを育んできました。

第一に、海外ネットワークです。ご存知のとおり、当社は日本最古の歴史を有するアニメ制作会社です。会社創立時より「アニメの国際性」に着目し、他社に先んじて欧米圏に設立した現地法人を起点としたネットワークを通じて、日本発の多彩な作品群を展開し、確実に収益を上げてきました。

第二に、日本最大、世界有数のライブラリー作品群です。多彩な作品を通じた業績の安定性は、事業戦略上、積極的な挑戦を可能とする大きな支えとなっています。

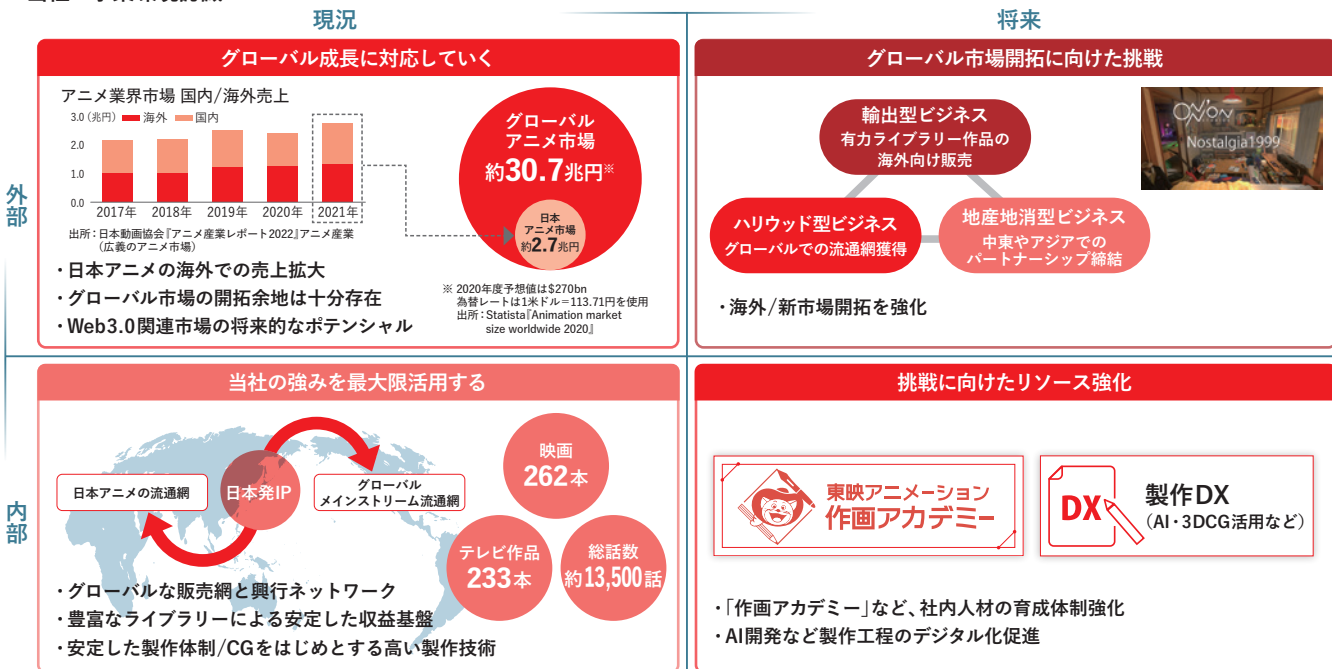
第三に、人々を魅了する製作技術です。特に、グローバルな作品展開を念頭に、積極的なCG技術開発を行ってきた成果は、前年度劇場公開した映画「ドラゴンボール超 スーパーヒーロー」や映画「THE FIRST SLAM DUNK」で、世界中のファンや関係者から高い評価を得ることに繋がりました。

当社は一層の成長を遂げるべく、引き続き、グローバルでの作品展開を加速させてマーケットシェアを拡大し、世界に冠たる東映アニメーションブランドの確立を目指します。具体的には、輸出型ビジネス、ハリウッド型ビジネス、地産地消型ビジネスを海外市場戦略の3本柱として推進していきます。

▶ 輸出型ビジネス

既存ビジネスの延長線上で、国内で創出した作品を海外で展開するものです。従来の取組みを一層強化するとともに、新たな有望地域を見定め、ビジネスの拡大を図っていきます。

■ 当社の事業環境認識



▶ ハリウッド型ビジネス

「聖闘士星矢 The Beginning」が第一弾となりますが、輸出型ビジネスと全く異なるグローバルな流通網を活用して、当社の指揮・統括の下、海外で企画製作した作品を、全世界へ一斉展開してIP価値を向上させ、関連ビジネス全体で収益獲得を目指すモデルです。

▶ 地産地消型ビジネス

現地パートナーと手を組み、展開地域の文化・慣習にも対応した作品を展開することでヒットを目指すものです。海外でのアニメ作品のヒットには、展開地域の文化的バックグラウンドの理解が重要です。信頼感の高い良いパートナーと手を組むことで、海外発アニメ作品ビジネスの成功を目指し、世界各地で布石を打っています。

海外市場のみならず、今後成長が期待されるメタバース等の新メディアへのチャレンジも積極的に行っています。

こうした戦略を支える基盤の拡充・強化にも、精力的に取り組めます。本年4月には「作画アカデミー」を開設し、アニメーターを自社内で育成する取組みを開始しました。また、AI開発を含めた製作工程のデジタル化も推進しています。

グローバルアニメ市場は、今後一層の拡大が見込まれており、当社としては、さらなる高みを目指し、既存の強みを最大限活かしながら、競争力の強化に向けて積極的な取組みを進めていく所存です。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともより一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2023年6月
代表取締役社長

高木 勝裕

大ヒット公開中！
「THE FIRST SLAM DUNK」

THE FIRST
**SLAM
DUNK**

「作品を届けるために」
今なお続く挑戦

Q1 長年にわたる製作過程のポイントや
苦労した部分を教えてください。

製作においてとにかく挑戦していたのは、井上監督が大切にされていた、「(漫画の中のキャラクターである)あいつらが生きてそこにいる感」です。製作当初から、スタッフ皆がそれを共有できるかがとても大事なテーマでした。長年にわたる製作期間の中で、数百人に及ぶ大勢のスタッフと共に作業をしつつも、そのテーマを表現するために芯をブレさず、微に入り細に入り修正しながらアップデートをし続ける日々でした。

製作中には各パートの要所を担うクリエイターから監督へのご提案と、監督からのフィードバックが数多く重ねられました。それは簡単な作業ではありません。監督のイメージする意図に近づけようと、クリエイターがこれまでの経験と知識を総動員して提案します。そこから監督のフィードバックを受け、時には一旦これまで組み上げて来たものすべてを壊して、一から新しいものを創り出さなければならぬ場合もありました。この作業は、心身ともに大きな負担や労力がかかり、クリエイターにとってはかなりのプレッシャーで、勇気のいる作業だと思います。逆に、フィードバックを出す監督の側にも同じことが言えます。漫画家として、頭の中のイメージをすべてご自身で描き上げられてきた井上先生が、初めて監督という立場で各パートのスタッフにイメージを伝える作業もまた相当なプレッシャーだったと想像します。

それもこれも、すべては今よりもっと上があるのでは？と、作品がより良くなることを信じ、監督を信じ、スタッフを信じる、お互いの信頼関係が無ければ成立し得ない、高次元のクリエイティブに対する挑戦の連続だったと、私は思っています。



音響に関してもそうです。漫画における吹き出しの中のセリフ、オノマトペ、コマサイズでの音響表現という漫画独特の表現を、映画音響でどこまで具現化し、伝えられるか、音響監督をはじめとするスタッフ、CV(声優)、アーティストの方々が、監督のイメージを超えていこう！という気概で最後まで挑戦を諦めませんでした。

長い時間がかかったのはあくまでもそれらを積み重ねた結果でしかありません。知識、経験豊富なプロのスタッフを本気にさせた監督の力がまずあって、全製作陣が、監督のイメージを具現化するために、自身の進化を信じて挑戦をし続けるという、その意志と行動が無ければ何も始まらなかったですし、到達もできなかった作品だと思っています。

Q2 現在も上映中ですが、今だからその
見どころを教えてください。

映画館でご覧いただくお客さまが、作品と出会うことの喜びと驚きを大切にしたいと思ってここまでやってきました。監督曰く、「知らない人には初めての、知ってる人には、知ってるけど初めて見るスラムダンク」という映画になっていると私も思います。劇場で2桁回数観ている私にも、いまだに新たな発見がありますから。発見は映画の中身に対してだけではなく、それを見ている自分自身の中にもある、という点も含めてです。井上監督は、「作品は見た人に届いて初めて完成する」と話していらっしゃいました。何度も劇場に足を運んでくださったファンの方々に、さらなる喜びと驚きを共有していただけることは、それだけ監督以下、製作陣が作品に込めた沢山の想いが届いているからだと思います。

製作陣としては、原作ファンのみならず、原作を知らない世代、未読の方々にも広く届いたことはとてもありがたく、嬉しく思っています。

Q3 上映方法にも、「応援上映」などさまざまな取組みがみられます。そのような取組みに至った経緯を教えてください。

この作品は、想いを込めて製作した作品なので、1人でも多くの方に劇場で受け取っていただくために、宣伝や配給、興行に至るところでも、全スタッフ・関係者の方々が挑戦をし続けて来ています。“応援学割”は、「スラムダンク」の原作を読んだことのない学生世代が作品と出会うきっかけづくりを、春という学生同士の思い出づくりのシーズンに実施したい、という施策でした。“応援上映”や、“赤ちゃんと一緒にTHE FIRST SLAM DUNK”、“バリアフリー上映”などの施策は、公式サイト、SNSアカウントなどにお寄せいただいているお客さまのご希望に耳を傾け、感謝を込めて応えていきたい、と実現した施策です。このような施策は、興行会社、全国の映画館主やスタッフの方々のご理解とご協力がなければ実現できなかったもので、ありがたいです。これからも、お客さまとの相互コミュニケーションを大切に、最大限に続けていければと思っています。



応援上映の様子

Q4 公開から4ヵ月ほど経つ今、松井プロデューサーの中に特に残っているお客さまからの言葉はなんですか。

「感謝」。その一言に尽きます。私自身、業界30年以上になるキャリアの中で、これほどご覧いただいたお客さまに喜んでいただき、「感謝」の言葉を伝えていただいたことは経験がありません。振り返ると、20年前にこの作品を映画化したい、と思って以来、自分を後押ししてくれていたのも「感謝」だったように思います。2003年当時、原作がすでに国民的漫画となっていて、TVシリーズも人々の思い出として広く息づいていた「スラムダンク」のDVD化の企画を実現できたときに、あらゆる世代、幅広い層の多くのお客さまから「感謝」の声が届きました。まだSNSも普及していない時代に、その貴重な経験ができたことが、この作品へと繋がるモチベーションになったのは確かです。改めて、私からもお客さまへの「感謝」、製作陣をはじめ、

宣伝・配給を含むすべてのスタッフや関係者の方々にも「感謝」、この作品に携われたことに「感謝」、そして何より、すべては源泉の「スラムダンク」を生み出してくださった井上先生への感謝しかありません。

※インタビューは、4月4日に行われました。



松井 俊之(まつい としゆき)

「THE FIRST SLAM DUNK」のプロデューサー。映画会社、テレビ局、フリーランスを経て、現在は東映アニメーション所属。プロデューサーとして、「ロックンロールミシン」、「BALLAD 名もなき恋のうた」、「花のあと」などの実写から、「RE: キューティーハニー」、「ポッピンQ」などのアニメーションまで、幅広く手がけている。本作で第42回藤本賞受賞。

スタッフ

- 原作・脚本・監督：井上雄彦
- 演出：宮原直樹、大橋聡雄、元田康弘、菅沼英美彦、鎌谷 悠、北田勝彦

キャスト

仲村宗悟、笠間 淳、神尾晋一郎、木村 昴、三宅健太 ほか

公式サイト

<https://slamdunk-movie.jp/>

作品実績

- 第46回日本アカデミー賞 最優秀アニメーション作品賞
- 第1回 新潟国際アニメーション映画祭 大川＝落谷賞
- 第42回藤本賞

興行実績

- 国内興行収入141億円
- 全世界興行収入340億円突破(日本含む)
- 中国における前売券販売額が 海外アニメ作品史上最高記録を達成(1.15億元)、 興行収入120億円
- 韓国、香港、台湾、中国、ベトナムで興行収入1位を獲得

※興行収入はすべて5月17日時点のものです。



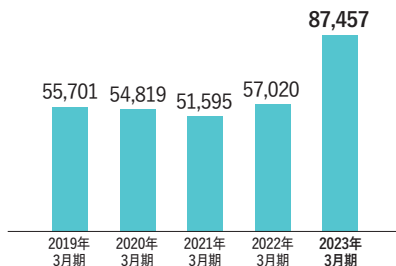
決算のご報告 2022年4月1日～2023年3月31日（第85期）

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結売上高

874億57百万円 前年同期比 53.4% ↑

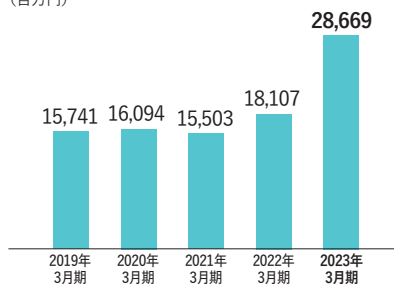
(百万円)



連結営業利益

286億69百万円 前年同期比 58.3% ↑

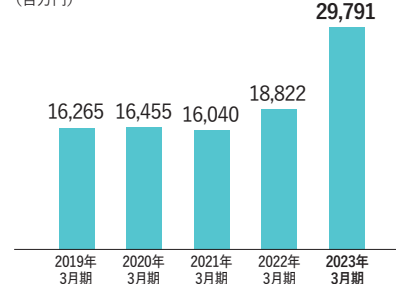
(百万円)



連結経常利益

297億91百万円 前年同期比 58.3% ↑

(百万円)

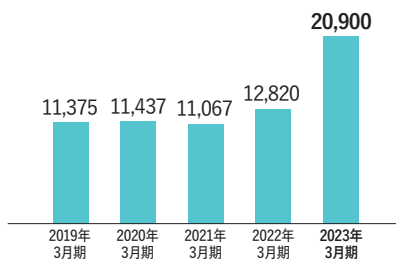


親会社株主に帰属する

連結当期純利益

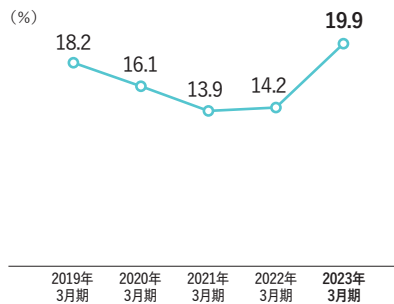
209億00百万円 前年同期比 63.0% ↑

(百万円)



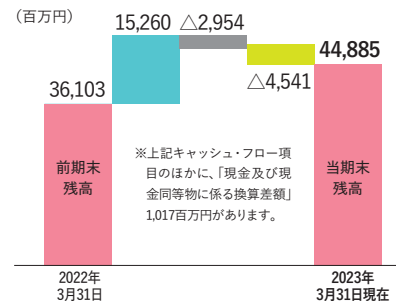
ROE(自己資本当期純利益率)

※ 自己資本当期純利益率 = 当期純利益 / 自己資本(期中平均) × 100



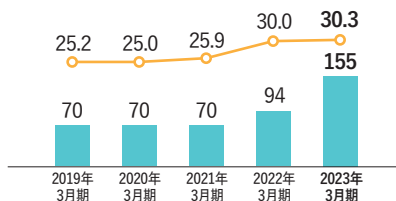
連結キャッシュ・フロー

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー
■ 財務活動によるキャッシュ・フロー



配当

■ 1株当たり配当金(円) ○ 配当性向(%)



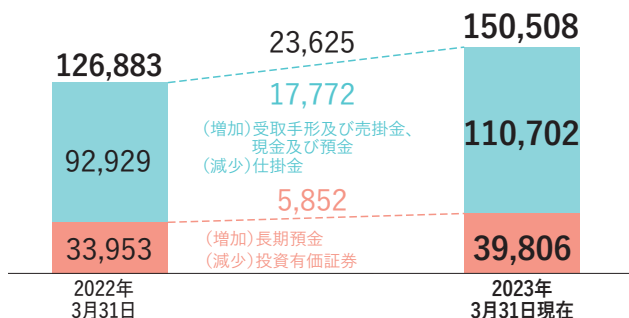
当社は、株主の皆さまに対する利益還元を重要な政策の一つとして考えており、財務の健全性、成長が期待されるビジネス機会への投資、株主さまへの利益還元のバランスを取りながら安定した配当を継続的に実施していくことを基本方針としています。当期の年間配当金につきましては、1株当たり155円としました。

連結貸借対照表

資産の部

(百万円)

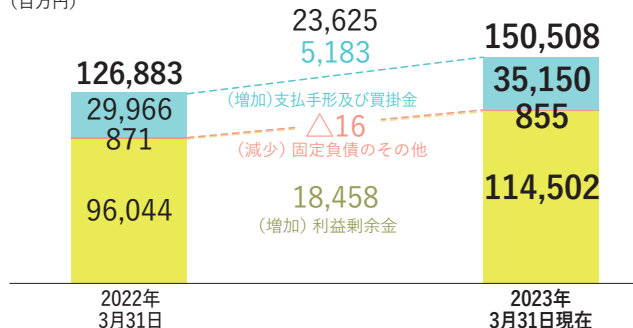
流動資産 固定資産



負債・純資産の部

(百万円)

流動負債 固定負債 純資産



2023年3月期 概要

- 売上高・利益ともに通期として過去最高記録を大幅に更新
- 劇場大型3作品の大ヒットにより、全セグメントが前期対比で好調に稼働
- 海外売上高比率は55%、円安進行などの経済状況も業績の押し上げに貢献

2024年3月期 見通し

- コロナ禍の収束で物販やイベント関連事業の回復や海外市場拡大で良好な外部環境が継続
- 2024年3月期業績は、2023年3月期に公開した劇場大型3作品の反動減や将来の成長に向けた戦略投資により、大幅な減収減益見込み
- TVアニメ作品では、「ワンピース」、「ひろがるスカイ！プリキュア」、「おしりたんてい」、「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」、「逃走中 グレートミッション」、「キボウノチカラ〜オトナプリキュア'23〜」を放映予定
- 劇場アニメ作品は、「聖闘士星矢 The Beginning」(2023年4月28日公開)、劇場版「美少女戦士セーラームーンCosmos」(前編2023年6月9日公開、後編2023年6月30日公開予定)、「映画プリキュアオールスターズF」(2023年9月15日公開予定)、「デジモンアドベンチャー02 THE BEGINNING」(2023年10月27日公開予定)、映画「鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎」(2023年11月17日公開予定)を製作・公開予定

2024年3月期 連結業績予想

売上高	72,000 百万円
販管費	13,500 百万円
営業利益	17,500 百万円
経常利益	17,800 百万円
親会社株主に 帰属する当期純利益	12,000 百万円

事業セグメントの状況

映像製作・販売事業

アニメーションの企画・製作、
各種メディア展開

Lineup of the year

劇場アニメ

2023年
4月28日公開



「聖闘士星矢 The Beginning」

2023年
6月9日前編公開、
6月30日後編公開予定



劇場版
「美少女戦士セーラームーン
Cosmos」

テレビアニメ

2023年
2月～



「ひろがるスカイ!プリキュア」

2023年
4月～



「逃走中 グレートミッション」

コンテンツ

UHD、Blu-ray
初回生産限定「ONE PIECE FILM RED」
デラックス・リミテッド・エディション



海外映像

中国向けポスター
映画「THE FIRST SLAM DUNK」



その他



映像配信サイト
『Netflix』



映像配信サイト
『Amazonプライム・ビデオ』

売上高

372億67百万円

前年同期比

79.4%



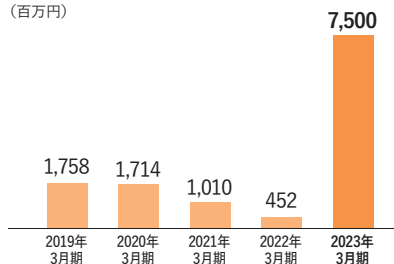
売上高構成比

42%

劇場アニメ部門

売上高 75億00百万円

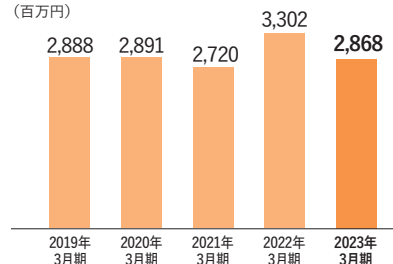
(百万円)



テレビアニメ部門

売上高 28億68百万円

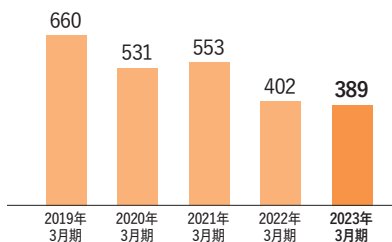
(百万円)



コンテンツ事業部門

売上高 3億89百万円

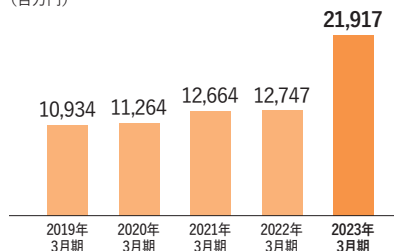
(百万円)



海外映像部門

売上高 219億17百万円

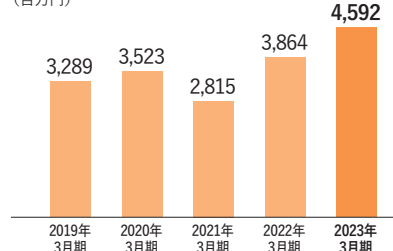
(百万円)



その他部門

売上高 45億92百万円

(百万円)



- **劇場アニメ部門**：映画「THE FIRST SLAM DUNK」、「ONE PIECE FILM RED」の記録的ヒットなどにより、前年同期と比較して大幅な増収となりました。
- **テレビアニメ部門**：前年同期と比較して放映本数および放映作品数が減少したことなどから、大幅な減収となりました。
- **コンテンツ事業部門**：前年同期好調に稼働した「デジモンアドベンチャー」シリーズ、「映画ヒーリングっど♡プリキュア」などのブルーレイ・DVDの反動減などにより、若干の減収となりました。
- **海外映像部門**：「ワンピース」、「ドラゴンボール」シリーズの北米向け配信権販売に加えて、映画「ドラゴンボール超 スーパーヒーロー」、映画「THE FIRST SLAM DUNK」、「ONE PIECE FILM RED」の海外上映権販売が好調に稼働したことから、前年同期と比較して大幅な増収となりました。
- **その他部門**：国内の映像配信権販売が好調に稼働したことから、前年同期と比較して大幅な増収となりました。

事業セグメントの状況

著作権事業

作品に登場するキャラクターを使用した商品制作の許諾

Lineup of the year



国内展開商品

「ワンピース」、「ひろがるスカイ!プリキュア」、「ドラゴンボール」シリーズ

海外展開商品

「ワンピース」、「聖闘士星矢」シリーズ、「デジモン」シリーズ、「ドラゴンボール」シリーズ

売上高

420億60百万円

前年同期比

27.5%

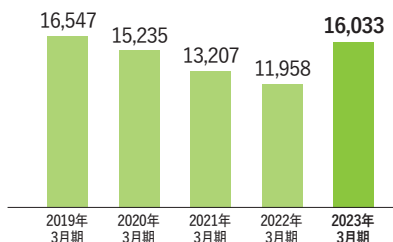
売上高構成比

48%

国内著作権部門

売上高 160億33百万円

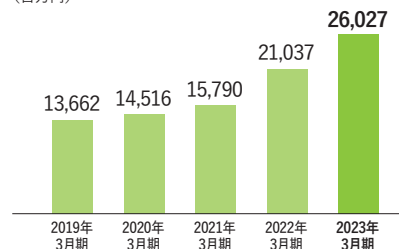
(百万円)



海外著作権部門

売上高 260億27百万円

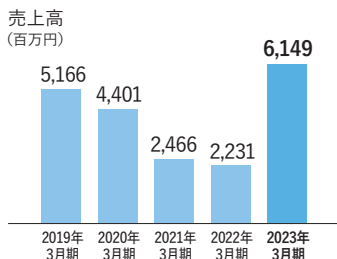
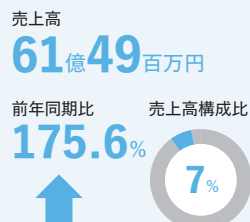
(百万円)



- **国内著作権部門**：映画「ドラゴンボール超 スーパーヒーロー」、「ONE PIECE FILM RED」の公開と連動した展開により、両作品ともゲーム化権、商品化権が好調に稼働したことなどから、大幅な増収となりました。
- **海外著作権部門**：「ドラゴンボール」シリーズ、「ワンピース」のゲーム化権販売に加え、「ドラゴンボール」シリーズ、「ワンピース」、「デジモンアドベンチャー」シリーズの商品化権販売が好調に稼働したことから、大幅な増収となりました。

商品販売事業

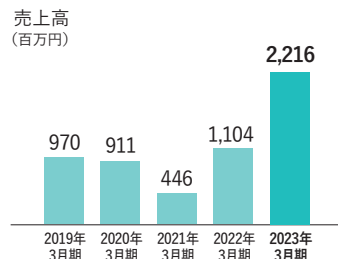
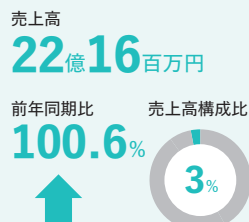
自社商品の開発・
販売やショップ展開



- 映画「THE FIRST SLAM DUNK」の商品販売や、「ワンピース」のショップ事業が好調に稼働したことなどから大幅な増収となりました。

その他事業

キャラクターを使用した
イベントの企画・運営

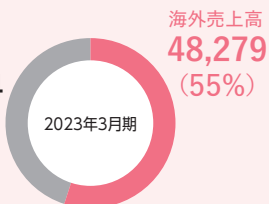


- 催事イベントやキャラクターショーなどを展開しました。「プリキュア」シリーズや「金色のガッシュベル!!」、 「ワンピース」の催事が好調に稼働したことから大幅な増収となりました。

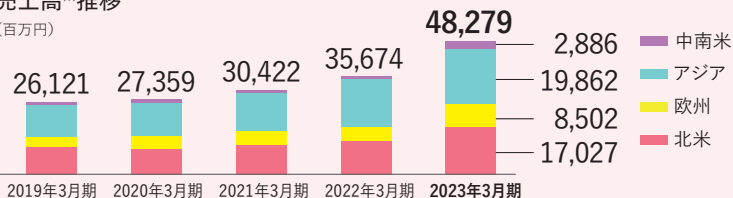
海外での事業展開

国内・海外
売上高構成比
(百万円)

39,414
(45%)
国内売上高



海外地域別
売上高*推移
(百万円)





2022年度中間実施

株主さまアンケート結果のご報告

2022年12月に実施しました株主さまアンケートに、数多くのご回答をお寄せいただき誠にありがとうございました。ご返信をいただきました1,700名を超える株主さまの中から厳正なる抽選を行い、300名の皆さまに「ワンピース」2023年カレンダーを送付しました。今回もアンケート結果のご報告として、皆さまより頂戴したご意見の一部と担当者からのコメントを紹介します。

アンケート回収状況

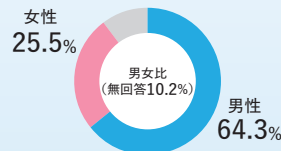
回収率

回答数 **1,715名**
株主数 **7,728名**※

※2022年9月末時点

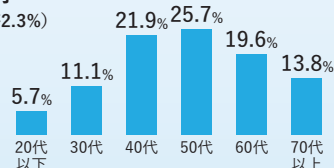
22.2%

ご回答者の属性



年代別

(無回答2.3%)



当社に投資された理由をお聞かせください

子どもが「プリキュア」好きでコンテンツを応援している。(40代男性)

世界と戦えるコンテンツがある企業だから。(50代男性)

日本を代表する企業だと思います。(40代女性)

株主を大切にしてくれる会社です。(60代男性)

子どもとの話題づくり(「プリキュア」)。単身赴任の私にとっては共通の話題になり、かつプレゼントなどを喜んでもらえるので助かります。(40代男性)

かつてのIRフェアでの説明が良かった。(60代男性)

家族みんなで応援しています。(40代無回答)

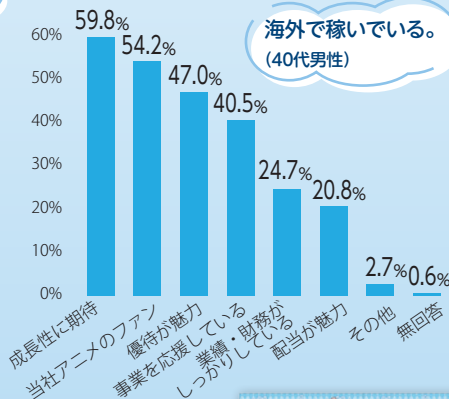
子どもがマンガのファンだったころ投資して、私が今クオカードをコレクションしている。(60代無回答)

投資できる業種として面白い。(50代男性)

家内が御社のアニメのファン。(40代男性)

地元の企業だから。(無回答)

海外で稼いでいる。(40代男性)



担当者より アンケートご協力をお願い 締切日：2023年7月21日(金)

株主の皆さまとより良い関係を築き上げていくために、本誌郵送時に同封のアンケートにご協力をお願いします。ご回答いただきました方の中から抽選で**500名様に「ひろがるスカイ!プリキュア」、「ワンピース」のクリアファイルセット**を進呈します。当選の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



皆さまからのご意見・ご質問

Q

映画「THE FIRST SLAM DUNK」の好スタートを祈念しています。
世界を視野に頑張れ！(70代以上男性)

A

ありがとうございます。映画「THE FIRST SLAM DUNK」は、国内では2022年12月3日に公開され、興行収入は141億円と、大ヒットとなっています。

さらに、2023年2月には「第1回新潟国際アニメーション映画祭 大川＝落谷(ふきや)賞」を受賞したほか、2023年3月には「第46回日本アカデミー賞 最優秀アニメーション作品賞」を受賞し、高い評価を受けています。

加えて、海外でも中国、韓国を筆頭に、台湾、香港、ベトナムといったアジア地域を中心に大ヒットしており、特に中国では興行収入120億円に達しています。現在、欧米での劇場公開も準備を進めており、さらなるヒットを期待しているところです。

※興行収入はすべて5月17日時点のものです。

Q

今作の「プリキュア」で娘が映画デビューしました！凄く喜んでくれ、親として大満足です。今後とも応援しています。(40代女性)

A

お子さまが「プリキュア」で映画デビューされたとのこと、大変嬉しく思います。

当社はこれまで幅広い年齢層の皆さまが楽しめる作品づくりに注力してきました。その中でも「プリキュア」は、これまで多くの子どもファンに支えられて成長してきた作品です。今後もたくさんの子どもに楽しんでもらえるよう、努力していきます。

さらに、20周年を迎えた「プリキュア」は、「キボウノチカラ～オトナプリキュア'23～」を2023年10月よりNHK Eテレにて放送開始予定です。本作は、これまで「プリキュア」を見て育ったファンの皆さまに向けた新たな取組みで、長期にわたり「プリキュア」シリーズを幅広い層に楽しんでいただくことを狙いとしています。ぜひ楽しみにお待ちください。

Q

「ONE PIECE FILM RED」の記録的ヒットは鳥肌が立つくらい嬉しいです。(60代男性)

A

今回のアンケートで、「ONE PIECE FILM RED」をご覧になられたとの声をたくさんいただきました。「ONE PIECE FILM RED」は、国内映画興行収入ランキングの2022年第1位、歴代第8位と記録的な大ヒットとなりました。海外興行収入も319億円を突破し、本作で、これまで以上に世界中のファンに「ワンピース」の魅力を伝えられたと思います。

また、最近では映画の展開に加え、「ワンピース」のTVシリーズにおけるクオリティアップにも努めており、SNSなどでファンの皆さまからお褒めの言葉をいただくことが多くなりました。

今後も皆さまに楽しんでいただくための施策を数多く用意していきますので、ご期待ください。

Q

夏にミュージアムの見学に初めておじゃましました。「プリキュア」のパネルに娘は大喜びでした。アニメ制作の様子や「プリキュア」のデザインなどとても興味深いものばかりで、大人も楽しかったです。「ONE PIECE FILM RED」の台本も置いてあったのにはびっくり！今は工事中とのことなので、リニューアルされたらまた行ってみたいです。(30代女性)

A

ミュージアムに足を運んでいただき、ありがとうございます。ミュージアムは、東映アニメーションの歴史のほか、アニメーションの製作工程などを常設展示しています。また、不定期ではございますが、企画展も開催しています。なお、企画展の情報などは東映アニメーションミュージアムのWebサイトやTwitterで告知していますので、そちらもぜひご覧ください。

担当者のおすすめポイントは、中庭の黒板です。スタジオのスタッフがキャラクターの絵を描いてくれている時がありますので、ぜひチェックしてみてください。



「デリシャスパーティープリキュア」
キャラクターデザイン 油布京子 作画

東映アニメーションミュージアム 営業情報

- ・開館時間：11:00～16:00(最終受付時間 15:30)
- ・休館日：毎週火曜日・水曜日、その他不定休
- ・入館料：無料

株主優待のご案内

権利確定日:3月末日

描き
おろし



「ひろがるスカイ！プリキュア」
毎週日曜日 朝8:30～
ABCテレビ・テレビ朝日系列にて放映中

2023年3月期
贈呈の
QUOカード



「逃在中
グレートミッション」
毎週日曜日 朝9:00～
フジテレビほかにて
放映中



「タイガーマスク」
1969年10月2日～
1971年9月30日
放映



「これがUFOだ！空飛ぶ円盤」
1975年3月21日公開作品

株主優待オリジナルの 「キャラクター QUOカード」を進呈

株主優待限定の描きおろしデザインを含む、
人気の新作アニメ2枚、懐かしの名作アニメ
2枚の計4枚が1セットです。

贈呈基準

所有株式数	優待内容
100株以上	1セット (1,200円相当)
300株以上	2セット (2,400円相当)
500株以上	3セット (3,600円相当)
1,000株以上	5セット (6,000円相当)
3,000株以上	8セット (9,600円相当)
5,000株以上	10セット (12,000円相当)
10,000株以上	12セット (14,400円相当)

トピックス ▶ 株主さま限定オンラインイベントを開催しました！

2023年3月17日に、3回目となる「株主さま限定オンラインイベント」を開催しました。
今後も皆さまに楽しんでいただけるような企画を検討していきます。
実施希望の企画がございましたら、アンケートの自由記述欄に記載いただけますと幸いです。

イベント配信内容

- ① 「プリキュア」20周年スペシャル対談
鷲尾 天（「プリキュア」シリーズ初代プロデューサー）と
稲上 晃（「プリキュア」シリーズ初代キャラクターデザイン）によるスペシャル対談
- ② メタバース企画の紹介
東映アニメーションで取り組んでいるメタバース企画の紹介
- ③ 東映動画の歴史紹介
東映動画（東映アニメーションの旧称）の設立当時の歴史紹介



会社情報 (2023年3月31日現在)

商号	東映アニメーション株式会社
英文社名	TOEI ANIMATION CO., LTD.
本社	〒164-0001 東京都中野区中野四丁目10番1号 中野セントラルパーク イースト5階 TEL 03-5318-0678(代表)
従業員数	連結 :900名 単体 :616名
上場市場	東証スタンダード(コード:4816)
ホームページ	https://corp.toei-anim.co.jp

株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月に開催します。
基準日	毎年3月31日 其他必要がある場合は、あらかじめ公告します。
剰余金の配当	毎年3月31日現在の株主または登録株式質権者にお支払いします。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	TEL:0120-232-711(通話料無料) (受付時間:土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
公告方法	電子公告 https://corp.toei-anim.co.jp

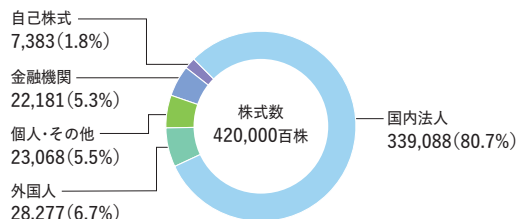
株式の状況 (2023年3月31日現在)

発行済み株式総数	42,000,000株
株主数	8,596名

大株主(上位10社およびその状況)

株主名	持株数 (百株)	持株比率 (%)
東映株式会社	141,000	33.6
株式会社テレビ朝日	82,509	19.6
株式会社バンダイナムコホールディングス	45,372	10.8
株式会社フジ・メディア・ホールディングス	34,300	8.2
JP MORGAN CHASE BANK 380815	20,200	4.8
東映ビデオ株式会社	13,647	3.2
東映ラボ・テック株式会社	10,500	2.5
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 フジテレビジョン口 再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行	8,000	1.9
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 ソニー株003口 再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行	7,800	1.9
株式会社ソニー・ピクチャーズエンタテインメント	7,800	1.9

所有者別株式分布状況 (単位:百株)



お知らせ

■住所変更、単元未満株式の買取などのお申し出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。

■「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねています。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

※確定申告をなされる株主さまは、大切に保管ください。

第86期
上期

注目の10作品



「ひろがるスカイ!プリキュア」
毎週日曜日 朝8:30～
ABCテレビ・テレビ朝日系列にて放映中



「逃走中 グレートミッション」
毎週日曜日 朝9:00～
フジテレビほかにて放映中



「ワンピース」
毎週日曜日 朝9:30～
フジテレビほかにて放映中



「ミラキュラス レディバグ&シャノワール」
毎週土曜日 朝7:30～
テレビ東京系列にて放映中



「おしりたんてい」
毎週土曜日 朝9:00～
NHK Eテレにて放映中



「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」
毎週金曜日 午後6:40～
NHK Eテレにて放映中



「いきものさん」
2023年7月 MBS/TBS系
全国28局ネット「スーパーアニメイズム」
枠おしりにて放送



「聖闘士星矢 The Beginning」
2023年4月28日公開



劇場版「美少女戦士セーラームーンCosmos」
前編 2023年6月9日公開、
後編 2023年6月30日公開予定



映画「プリキュアオールスターズF」
2023年9月15日公開予定

©2023 TOEI ANIMATION CO., Ltd. All Rights Reserved・I.T.PLANNING,INC.・2022 THE FIRST SLAM DUNK Film Partners・武内直子・PNP/劇場版「美少女戦士セーラームーンCosmos」製作委員会・ABC-A・集英社・フジテレビ・尾田栄一郎/2022「ワンピース」製作委員会・Bandai Namco Entertainment Inc.・BANDAI・車田正美・本郷あきよし・バードスタジオ・梶原一騎・辻なおき/講談社・東映・トルコ・ポプラ社/おしりたんてい製作委員会・廣嶋玲子・jyajya/借成社/銭天堂製作委員会・2023 ZAGTOON-METHOD-TOEI ANIMATION.・和田淳・ニューディアー・2023 映画プリキュアオールスターズF製作委員会・東映アニメーション

免責事項

この報告書に記載しております当社および当社グループの計画や見通しにつきましては、現在入手可能な情報から得られた経営者の判断に基づいたものであり、今後さまざまな要因の変化により異なる結果となることがあります。

本誌は、環境に配慮した森林認証紙および植物油インキを使用しています。

